

緑の丘から

緑の誓い

☆さわやかにあいさつをします
 ☆進んで勉強をします
 ☆きまりを守ります
 ☆心をこめて掃除をします
 ☆みんなど仲良くします



まとめと準備の三学期

三学期が始まり、早くも二週目を終えようとしています。毎年、三学期のめには子どもにも職員にもいうことですが、三学期は、今の学年のまとめをする大事な学期であると同時に、進級・進学に向けて準備をする学期でもあります。これからの学習・学校生活でも振り返りながら、少しでも多く子どもたちに力を付けて次の学年に送り出せるように全職員もよろしくお願いいたします。三学期

ちよつといい話

先輩からいただいた資料に載っていたお話です。

子どもたちのころ。私はよく「おまえは悪い子だ」と言われた。落ち着きがなく、生意気な態度ばかりとる。憎まれ口を叩き、とつくみあいのケンカをする。皆、私に手を焼いていたらしい。そう言われれば言われるほど私は周囲の期待通りの問題児になっていった。当時の私の行動指針は、「私は悪い子なんだから」だった。小学三年のある日のお昼休み、みんなと遊ぼうと校庭に向かう途中、校長先生

に出くわした。いつも優しく穏やかなこの校長先生を、私は心密かに慕っていた。先生は、いつものように「こんにちわ」とあいさつした後、私の膝に目をとめ、「そのケガ、どうしたの？」とお尋ねになった。私は、「木登りをしていたら落ちてすりむいたけど、少しも痛くないです」と答えた。先生はにこりとして、「君は強いね。元氣いっぱい生きて、とてもよい子だ。」と仰った。「悪い子」の私はびっくりして、「私は全然よい子じゃありません。悪い子です。」と急いで訂正したら、今度は先生が目をつめたくして驚かれた。先生は私の目を見つめたまま、私の両肩にそつと手を置き、「君はちつとも悪い子なんかじゃないよ。素直で優しい心を持ったすばらしい子だ。君はいつも私に元氣にあいさつしてくれるね。先生はそれがとっても嬉しいんだよ。」私は憧れの先生にほめられておもはやくもじもじしていたのだろう。先生は破顔して、「めんこ、めんこ（東北弁でかわいい子の意）」と言った私の顔を撫でてくれた。私は先生の柔和な笑顔を見上げながら、「今日から私はよい子になるんだ」と心に決めた。そうして小学校を卒業する頃には、周囲から「優等生」と評されるようになった。

あの日の先生の言葉が私を変えたのだ。

教育心理学の世界に「ピグマリオン効果」という理論があります。私はこの話を読んでこの言葉を思い出し、これからは、もともとはギリシャ神話の伝説に由来したのですが、簡単に言う

「人間は期待されたとおりに成果を出す傾向がある。」という考え方です。

「あなたはよい子だよ。」と子どもたち（大人も同じかも知れませんが）に期待の言葉を投げかけ続けられ、そのとおりになる。「この校長先生は、きつとそんな信念の持ち主だったのだろうと思います。」

私などとうてい及ぶべくもありませんが、せめてこの先生のような気持ちになって子どもたちに接していきたいと思いを新たにしました。

